

第7回さよなら原発福井県集会 2018 in ふくい 原発のない新しい福井へ3・11メモリアルアクションにご参加のみなさんへ

今日からちょうど7年前に東日本大震災が発生しました。私たちは亡くなられた方がたに心からの哀悼の念を表するとともに、被災者の苦難に心を寄せています。福島第一原発事故では今なお原子力緊急事態宣言は解除されず、大気中や海中に放射性物質が放出され続けています。事故原因の究明も進まず、廃炉の見通しも立っていません。福島第一原発で働く労働者は、劣悪な労働環境の下で、被ばく労働を強いられています。

この1年、原発のない社会をめざす運動は一進一退でした。大阪高裁は昨年3月、大津地裁の関西電力高浜原発3、4号機の運転を差し止め仮処分決定を取り消し、高浜原発3、4号機は再稼働しました。大飯原発3、4号機もまもなく再稼働させようとしています。他方、大飯1、2号機は廃炉が決まりました。昨年12月に広島高裁は、高裁として初めて伊方原発3号機の運転差し止め仮処分を決定し、伊方原発3号機は動かさなくなりました。関西電力は、高浜1、2号機と美浜3号機のような危険な老朽炉の再稼働の準備を進めています。事故時に実効性のある避難計画はありません。これらの原発を1日も早い廃炉に追い込みましょう。

福島県では、甲状腺がんが見つかった子どもたちや健康異常を訴える人びとの数は増え続けています。昨年3月に帰還困難区域を除く避難指示区域がすべて解除されましたが、戻ったのは高齢者中心に2割以下です。自宅に戻れない多くの避難者は、経済的・精神的に追い詰められています。放射線も平常時よりはるかに高いにもかかわらず、避難者支援が打ち切られ、帰還が強要されています。今後も困難な状況にいる避難者をはじめ、被害者を支える運動を強めましょう。

原発推進がますます矛盾を広げる中で、安倍政権は原発に依存するエネルギー政策に固執しています。21兆円を超える原発事故の損害を、国民の税金や電気料金に上乗せして国民に転嫁しています。原発の高コストは否定できなくなり、今では原発推進の口実も電力会社の経営安定のためとしか言えなくなっています。高速増殖炉もんじゅの廃炉や青森県六ヶ所村の核燃料再処理工場の不調により、原発稼働に伴う使用済み核燃料の再処理や処分方法は確立しておらず、原発敷地のプールに水冷保管しているだけで、今後の使用済み核燃料の増大に対応できません。関電は福井県の要望に応えるべく、使用済み核燃料の一時保管場所として、県外に中間貯蔵施設を建設することを目論んでいます。中間とは名ばかりで、永久の核のゴミ捨て場になることは明らかです。滋賀県内はもちろんのこと、どこにも中間貯蔵施設を造らせてはいけません。原発ゼロ法案について国会の審議が深められるよう求めます。

今日、ここに集う私たちは、福島原発事故を忘れることなく、被災した人々と連帯を強め、原発のない社会をつくりあげる決意を新たにしています。圧倒的多数の原発ゼロを求める国民世論によって原発推進勢力を包囲、孤立させ、自治体とも手を取り合って、大飯原発再稼働を許さず、放射能からびわ湖を守り、私たちと子々孫々の生活を守りぬきましょう。

大飯原発の再稼働反対。
高浜原発の稼働を停止させよう。
高浜・美浜の老朽原発の再稼働反対。
すべての原発再稼働反対。新增設反対。
原発輸出をやめさせよう。
避難者の住宅支援を復活させよう。
すべての原発を廃炉へ。

2018年3月11日 原発のない社会へ 2018びわこ集会 参加者一同